

たわわ



地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2003年3月28日

32号

「地域で生きる障害者を支える会」会報

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

3月の声を聞くと、もの皆目覚める春への変わり目、あるいはもっと現実的に年度末のせいもあって、どこもかしこも忙しくなります。皆様には、お変わりなくお過ごしでしょうか。

障害者グループホーム「よつばホーム」14年度第3回運営委員会の報告 第2館目ホームへの取り組みを決定

3月8日、新吉田町新田地区センターで、14年度第3回目の運営委員会が開かれました。まだ決算は出ておりませんが、これまでの実績に基づき15年度の事業計画と予算を審議いたしました。

「よつばホーム」は、設立以来無事に1年半が経過致しました。これからも今までのように訪問看護ステーションやホームドクターの齋木先生との連携を密に、ホームヘルパー（LLT介護サービス）やボランティアもスタッフに加えながら、安心して楽しく暮らせるグループホームを運営していきます。

また、次のグループホームへの入居を希望している人の緊急度が高まり、早急に取り組んでいかなくてはならない状況になりました。これを受けて運営委員会では平成16年4月を目標に、二館目のグループホームを設立することを決めました。

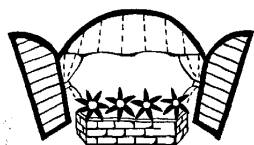
準備作業は、私たち「地域で生きる障害者をささえる会」が行い、設立のための経費も、ささえる会の本会計より出費します。

場所は一館目のよつばホームから歩いて2～3分のところになります。

今後入居を希望する人たちのケース会議を開き、メンバーの絞り込みの後、個人個人に合わせた住宅の建設と支援計画について検討を重ねてゆきます。

一方、この活動を支える職員の養成と、メンバーの体験入居も行っていかなければなりません。

また、地域の皆さんにより理解を深めていただくために、今年もグループホームの庭先で『交流バザー』を行います。会員の皆さんの、より一層の支援をお願い致します。



これからもよろしく！

古田 節子

私がしもだの電話番号としてお手伝いし始めてから7年の月日が経ってしまいました。

あの席に座っているといろいろな方が私の前を通っていきます。

まずは、元気な所員の皆さん。いつも純な心を忘れず、きらきらの瞳をみると、忘れかけていた純粋なものを思い出させてくれます。

そんな彼らを支えているお母さん方。いつもパワフルで、力強く、明るい。圧倒されっぱなしです。バザーのときはもちろん、グループホームを作るときは、手伝っている私のほうがサポートされているような錯覚をするほどでした。

それから、ボランティアの皆さん。無償の精神にはいつも頭の下がる思いです。人生経験豊富な皆さんには、いろいろなことを教えてもらったり、励まされたり。子育てのこと、家事のこと、老後のこと・・・仕事の手を休め聞き入ってしまうことしばしばです。

あの席に座って私はいろいろな力もらってきたような気がします。本当に楽しいです。これからもいろいろなこと吸収して、それを少しでも皆さんに返していけたらと思っていますが、やっぱり助けてもらうほうが多いかも・・・。

これからも、事務の席に私がいたら、声をかけていってください。楽しみにしています。



Sさんのこと

竹生 真喜子

Sさんと初めて会ったのは8年前の家族旅行でした。そのときの写真を送ってもらったことから、娘と手紙を交換するようになりました。彼は松葉杖を使用し、食事を摂るのが容易でない障害がありました。手紙は養護学校から苦学の末、国立大学を出て、企業で働いている事、姪御さんを目に入れても痛くない程可愛がっている事、大好きなおじいさんのこと等々を伝えてくれました。折々に励ましの言葉やプレゼントを贈って頂いたりもしました。年の離れたお兄さんと自らをいい、いつの間にか良きアドバイザーになってくれていました。家族で共有出来る不思議なご縁でした。

ところが去年の夏頃からメールが届かなくなり、年賀状も来ません。几帳面な彼らしくないと、不安を覚えていると、お父様から去年の6月に突然彼が逝ったことの知らせが届きました。30代の早すぎる死だったけれど友人に恵まれ素晴らしい人生だったと添えられていました。旅の途中、たった一度だけ出会った人でした。いつかまた会えると信じていた人でした。娘の落胆ぶりは言うまでもありません・・・。

出会いの奇跡—『一期一会』の言葉をかみしめています。



宏の一日

「さあ今日もしもだに行くよ」と声をかけると今まで静かに横になっていた人がキャーキャー声を出し始める。車に乗り、近所のおばちゃんが出ていると宏ちゃんいつてらっしゃい、と声をかけてくれる。車の中では私の耳の側でキャーキャー声を出すのでおこられながらしもだに着く。一日刺激のある生活をやって来るので家に帰ってからため息をつき大きなあくびをしながら10分位昼寝をする。夕食を済ませお父さんと大好きな風呂に入り、外に聞こえる位の大きな声を出している。9:30頃フトンに入り宏の一日が終わる。

めがねのこえ



いま、町やいろいろなところが、 障害者や高齢者たちも使いやすくなりました。今までは なかった駅にエレベーターが 出来るようになったりしています。

この前 パソコンの店に 行きました。

私が トイレに行こうとしたら、 障害者用には カギが かかっていました。

それから 何回か 行くたびにみるのですが やっぱりいつもカギが かかっています。

売り場の 店員は みんな親切で 車イスを押して 私の欲しい物のところへ案内してくれます。（ほんとは母と2人で ゆっくり品物をさがしていたときもあるのだけど・・・） 帰りにカギのかかった トイレを見て、また大笑いをしました。お飾りなのか、大事にしすぎなのか・・・ なんて。

それから この前久しぶりに 母と妹と3人で 横浜の東口に行きました。

車イスの駐車場は ありましたが、せまくて使いづらかったです。

ハートビル法が出来てから、いろいろなところに障害者のための マークがあるけれど スーパーのお店では 高いところに 品物があつて 車イスの人やお年寄りにはとれなかったり、レジのテーブルも 少し高かったり、車イスが通れないことが多いです。

1か所は どこでも広がってはいますが 障害者もおなじ人間だから、普通の人のように決まったところだけでなく どこからでも出入りできればいいなと思うこともあります。

まだまだ だなーといつも思います。

今月のよつぱホーム

よつぱホームでは、毎週金曜日の夕食は『リクエストメニューの日』として入居者のリクエストで夕食メニューが決まります。料理の本に載っている様々なメニューの中から、自分で選んだり、職員と話あったりしながら決めています。

今回は、花岡さんのリクエストメニューが決まるまでのやりとりを紹介します。ちなみに花岡さんはカレー好きで有名？で、リクエストメニューのほとんどが、カレーに決まります。今回は、前日の夕食がビーフストロガノフと言うこともあり、カレー以外のメニューを勧めてみました。では、そのやりとりを紹介します。

職員：繰り上がりで明日のリクエストメニューが花岡さんになりましたよ。

今から一緒に決めませんか？

花岡：いいよ～

この日は旅行でズーラシアに行ってきた日と言うこともあり、かなりハイテンションな花岡さんです。

職員：今日の夕食はビーフストロガノフなんで、明日はカレー以外にしませんか？

花岡：うん。分かった。

職員：じゃ、明日何にしましょうか？

花岡：(料理の本見ながら)肉カレーがいい！

職員：…。

花岡：ズーラシア行ってきたのよ～♪

職員：キリンはいましたー？

花岡：キリンはいなかったよー。オカピはいたよー。これ買ってきたの。

(オカピの人形見せながら)

職員：おお！可愛いですねー。もっと良く見せて下さい。ってオイオイ！(ノリツッコミ)

リクエストメニュー決めている途中ですよー。

花岡：そうだった。ごめん。

職員：じゃあ、この本から選んでみますか？

花岡：うん。カレーはどこー？

職員：えっと、確かこのへんのページにあましたよ。ってオイオイ！(ノリツッコミ)

カレー以外にも美味しそうなのいっぱいありますよ。

すっかり花岡さんペース

花岡：じゃあ、カレー以外にするわ。

職員：魚料理はどうですか？

花岡：ヤダ～。(笑)

職員：では、野菜料理は？

花岡：ヤダ～。(笑)

職員:それじゃあ、肉料理は？

花岡:ヤダ～。(笑) 長崎ちゃんぽんがいい！

長崎ちゃんぽん～♪ リンカーハット～♪ CMソングが耳に残ってた様で、しばらく口ずさむ。

職員の耳にも残ってしまい、この夜、頭から離れない この後も色々なやりとりの中で、ようやくメニューが決まった。

職員:じゃ、これでいいですね。

花岡:うん。この『鶏と野菜のごま煮』でいいよ。

これでメインディッシュが決まったと思った…。

～ここで夕食の時間 続きは食後に～

職員:じゃあ、お腹がいっぱいになったところで、リクエストメニューの続きをやりましょう。

花岡:うん。いいよ～。

職員:さっき決めた『鶏と野菜のごま煮』プラスもう一品決めましょう。

花岡:やっぱカレーにしようかな～。

職員:…。(涙)

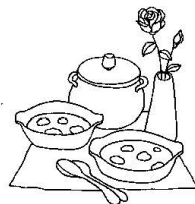
この後、ヘルパーさん・アルバイトの女性二人と一緒に話して、

『鮭のきのこあんかけ』

『ブロッコリー多めのスパサラ』

『野菜スープ』

に決まるのでした。



案ずるより

藤田 寿子

入居者家族の声

早いもので、博之がグループホームに入居して一年以上過ぎました。

始めの頃、あれこれ思い悩んでいたことが嘘の様に感じられます。

定期的にホームドクターや訪問看護の方に来て頂いていますので、体調をくずす事もなくとても元気に過ごして来ました。又、家に居た時より、色々と手をかけてもらい快適な生活をしている様で、博之にとっては、グループホームに入って本当によかったと思っています。ちょっとした表情や、声等を理解して、適切に対応して頂いていますが、博之の様な最重度の障害者がグループホームで生活していくのは並大抵の事ではなく、職員をはじめ、ホームドクター、訪問看護の方、ヘルパーさん等、多くの方々が親身になって係わって下さるおかげだと感謝しております。

会員更新についてのお知らせとお願い

早いものでまた会員更新のお願いをする時期になりました。

これまで多くの会員のご協力で、充実した活動ができました。

だれもが段々忙しくなる昨今ですが、少しずつ力を出し合って
目的を実現させていくことは、ほんとに素晴らしいことです。

重度重複障害者も地域の中で生き生きと暮らすということは、なかなか大変なことです。
ほとんどあきらめていたグループホームでの生活が実現したことは、他の多くの人達にも小さな希望の光となりました。

これからも決して簡単なことではありませんが、たくさんの会員の支えでこの光を守り育てましょう！グループホームを設立することは、一つの事業ですが、『生活』は毎日毎日続いていく終わりのない営みです。支える会にたくさんの会員の思いが集るということが、日々暮らしている人達や、直接仕事として関わっている人達にも、励ましとなっています。

これからも、「地域で生きる障害者を支える会」の会員・賛助会員として、できる時にできることで、一人一人のライフスタイルに合わせた息の長い活動をお願いします。

会費の納入について

1. 同封の振り込み用紙をご利用ください。(年会費：一口 2000円。何口でも)
直接お手渡しでも結構です。

年会費 会 員：一口 2000円

*事業の企画、運営、準備活動などにご参加くださる方。

*できるだけ、総会などの会議にもご出席ください。

賛助会員：一口 2000円

*主として、資金面でのご協力、側面からのご支援等。

2. 振り込み用紙に、会員・賛助会員のいずれかご希望をご記入ください

活 動 報 告

- *見学会学習会 3月3日(月)午前 しんよこはま地域活動ホーム
同 午後 つづき地域活動ホーム「くさぶえ」
- *市民活動フェアへの参加 3月15日～16日 県民サポートセンターにて
重度重複障害者の生活を伝える写真展示
- *新吉田地域交流のバザー 3月29日(土)よつばホーム前庭にて

